

園の教育活動や園運営について目標とすべき課題を設定し、その達成状況を話し合いながら自己評価をし、組織的かつ継続的な改善を図る。また子どもたちの日々の活動に対して学校関係者による評価を受けるとともに評価結果を共有することにより、保護者や地域住民の方々の理解と協力を得て、幼稚園・家庭・地域の連携体制による幼稚園づくりを進めることを目的とする。

(I) 建学の精神

「梅檀はふたばより香ばし」

子どもたちの育ちには幼児期の(ふたばの時期)の環境が最も大切

(II) コンセプト

「ひとつ芽生えてまたひとつ」

身の回りの事象に興味・関心をもつことが、次へのステップアップに最重要

(III) 教育目標

- ◆みんな仲良く(時には喧嘩も必要、そして相手を認めることの大切さを知ろう)
- ◆強い心と体で(強い意志をもって行動することは強い体をつくること)
- ◆最後までやりぬこう(途中で投げ出さず最後までやりぬき、完成の喜び味わおう)

上記(I)~(III)を根底において、将来を担う子どもたちを教育することを目指す。

(IV)平成30年度 園の重点目標

<p>★豊かな経験を通して、心も体も元気な子になろう。</p> <p>★自分の思いを先生や友だちに言葉で伝えよう。</p>

(V)平成30年度 各学年の重点目標

	重点目標	達成するために取り組むこと	結果
満3歳児	<p>・初めてのことも、先生たちと一緒にやってみよう。</p> <p>・友だちや先生と信頼関係を築き安定した気持ちで過ごそう。</p>	<p>・泡あそびなどの季節ならではの活動を入れられるよう進めた。</p> <p>・子どもたちの様子・表情を見ながら、できることは見守り、出来なかつたりやろうとしてもうまくいかない時には手をさし伸べられるように見守ってきた。</p>	<p>・普段はなかなかできない経験に子どもたちも、興味を持って取り組むことができた。</p> <p>・泣く子もいたが、常に寄り添うことで、気持ちも落ち着き、楽しむ様子が見られた。</p>
年少組・3歳児	<p>・新しい様々なことに楽しみながら挑戦し、出来た喜びを味わう。</p> <p>・園生活を安心して過ごし、自分の思ったことを伝えられるようになる。</p>	<p>・新しいことに対して保育者が楽しんでいる姿を見せたり、できるようになったことや、子どもたちの素敵などころをたくさん褒めた。</p> <p>・初めての園生活への不安な気持ちを受け止めるよう関わった。</p> <p>・子どもたちの伝えたいことに耳をしっかりと傾けた。</p>	<p>・保育者の姿を見て、やってみようとする姿が見られ、参加しやすい状況が作れた。</p> <p>・自信を持って色々なことに積極的に取り組む姿が見られるようになった。</p> <p>・泣いて登園していた子が園生活を笑顔で過ごし、楽しんでいる姿が見られるようになった。</p> <p>・最後まで焦らずに話せるように聞いたことで自分から伝えようとする姿が見られた。</p>

<p>年中組・4歳児</p>	<p>・何事にも積極的に取り組み、友だちと共に活動の楽しさを味わう。</p> <p>・自分の気持ちを素直に表現する大切さを知る。</p>	<p>・片栗粉あそびをしたり、絵の具を刷毛やローラを使って、みんなで大きな紙に塗るなどの活動をした。</p> <p>・学年全体でドッチボールやリレーに取り組んだ。</p> <p>・友だち同士のトラブルの際、保育士が気持ちを代弁しすぎず自分で伝えられるよう促した。</p> <p>・子どものしてほしいことが分かって、自分で言葉で伝えられるよう促した。</p>	<p>・初めての経験やいつもはできない経験に夢中になって取り組み、意欲的に取り組む姿が見られた。</p> <p>・全力で走ったり投げたり、わからない友だちに教える姿が見られ、心身ともに成長できた。</p> <p>・初めはなかなか自分の気持ちを言えない子もいたが回数を重ねるうちに言えるようになった。</p> <p>・小さなことでも言葉にしていこうと、自分の気持ちを相手に伝えられるようになった。</p>
<p>年長組・5歳児</p>	<p>・様々な体験を通して豊かな感性を育み、表現することの楽しさを味わう。</p> <p>・生活の中で必要な言葉を身に付け、自分の気持ちを表現するとともに伝わる喜びや伝え合う心地よさを味わう。</p>	<p>・日々の保育の中で子どもたちとやってみたく、体験させたいことを考え、子どもたちが楽しめるよう工夫した。</p> <p>・子ども自身の言葉を最初から最後までしっかりと聞き子ども同士で話し合えるようにきっかけを作り、様子を見守った。</p>	<p>・玉ねぎの皮で染め物体験や、クレヨンを溶かして作るマーブルクレヨン作りなど、子どもたちにとって身近なもので楽しい事が経験できた。</p> <p>・何を伝えたいのか、子ども自身がゆっくりと考えて発言していた。子どもたち同士で気持ちを伝え合う機会を持つことで、別の場面でも子ども同士が話し合う姿が見られた。</p>

(VI) 取り組みへのステップ

①	今年度の重点目標・自己評価項目の設定	年度初め
②	重点目標・自己評価項目の達成に向けた取り組み	年度初め～3学期末
③	学校関係者評価委員との関わり	期中
④	自己評価の実施	12月末・3月末
⑤	学校関係者評価の実施	3月中旬
⑥	該当年度決算書と学校評価結果報告書の作成	4月下旬
⑦	事業の取り組みと会計処理について公認会計士の監査を受ける	5月下旬
⑧	学校評価報告書をホームページにアップする	6月上旬

(VII) 教員の自己評価項目及び結果

評価結果とその項目数

	評価結果とその項目数					評価
	項目数	A	B	C	D	
1、園の基本項目	10	2	6	2	1	B
2、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考察するために	35	7	18	8	2	B
3、子どもとの関わり 4、保育環境	30	8	13	15	4	C
5、保護者との関わり・ほかの保育者との関わり	20	8	8	3	1	A
6、小学校との連携・配慮の必要な保育	5	1	1	1	2	D

上記は各項目に対する自己評価の結果を集計したものである。

(VIII) 2回の自己評価を終えて

職員それぞれが年間2回の自己評価を通して職員同士の連携や資質向上、安全管理の強化や施設設備の充実等に真剣に取り組む、園として、また学年の重点目標の指導についてはおおむね達成できた。自己評価の各項目の集計結果、十分でなかった点、特に評価の低かった項目については今後取り組むべき課題として継続的に取り組み、各課題をクリアできるように各自努力し、その努力が実って、質の良い保育を行えるよう取り組んでいきたい。

財務状況: 監査法人の監査を受け、予算・事業ともに適正に実施されていると認められている。

◇日常の保育等についての学校関係者・評価委員、評価と意見◇

評価者(1)

- ・行事の度に子どもの成長していく姿を見る事ができ、保護者の方々も嬉しいと思います。
- ・行事の準備も大変かと思いますが、結果だけを追い求めるのではなく、子どもたちが行事を通して成長していく姿を大切に、先生は今以上にそのための工夫や努力、試行錯誤を繰り返し、取り組んでください。

評価者(2)

- ・娘が園で学んでいること、友だちとの触れ合いなど、全てをとっても楽しんでいたので、園の活動に非常に満足しています。
- ・夏休みの登園日が多いことや預かり保育の料金が安価なことは、忙しい保護者の間でも好評でした。
- ・1学期が子どもの様子が気になる時期なので、前半にも一度、自由参観日があれば良いと思います。

評価者(3)

- ・行事では子どもの成長を感じることが出来、とても嬉しいです。衣装などは手作りのものが多く、とても温かい感じがします。その反面、先生の負担が多いのではないかと心配になります。
- ・担任の先生だけでなく園長先生や担任以外の先生が、子どもだけでなく保護者にとっても身近な存在で相談がしやすかったと思います。
- ・第一子の時から、一身上の都合で年度の途中で先生が変わったことが残念でした。

評価者(4)

- ・子ども自身も幼稚園や先生や友だちとの関わりを嬉しそうに話すので、楽しい園生活を送っているんだなど伝わってきます。
- ・日本太鼓などなかなか体験できない物にも触れられたり、地域の行事や四季それぞれの行事を体験することでたくさんの学びもあり良いと思います。
- ・いろいろな事情があると思いますが、何年か前まで実施していた親子遠足があれば嬉しいです。

評価者(5)

- ・全ての先生が子どもたちに対し、愛情を注いでくれていることが保護者からよくわかります。
- ・他の園ではできないようなことも、少人数制の園の特徴を生かし、よくやってくれていると思います。
- ・最近、園内ルールを守らない保護者の方が増えているように思います。保護者に注意することは難しいかもしれませんが、見て見ぬふりをせず、注意する勇気を持ち、今まで作ってきた「ふたば幼稚園」を崩さないように注意していただきますと幸いです。